

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される家庭系ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

- 【実施日】 令和4年8月19日（金）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 松原西・松原東（文京地区）
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
- 【備考】 ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、三方コンクリート
- 【想定条件】 学生居住地域
- 【採取量】 200.1kg（集積所8か所分）
- 【気温（平均）】 22.7℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

調査対象地域から市職員がごみを回収し、弘前地区環境整備センターへ搬入する。

（2）分類及び重量の記録

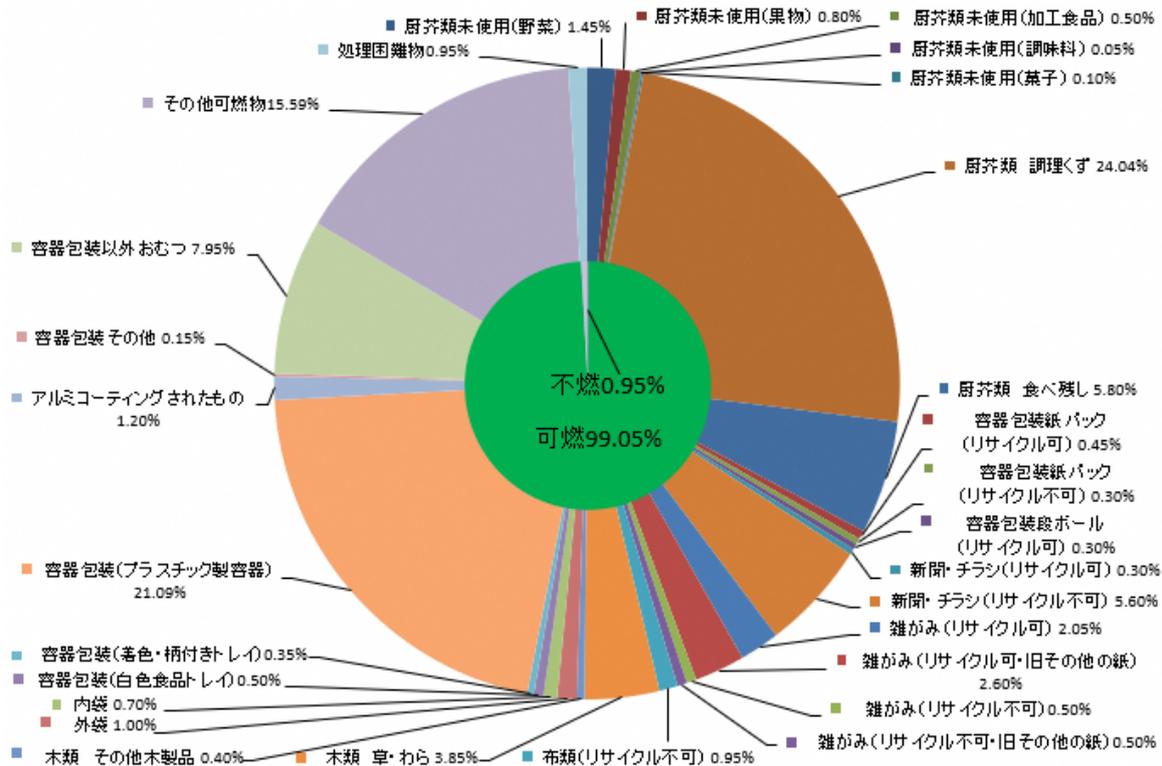
搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

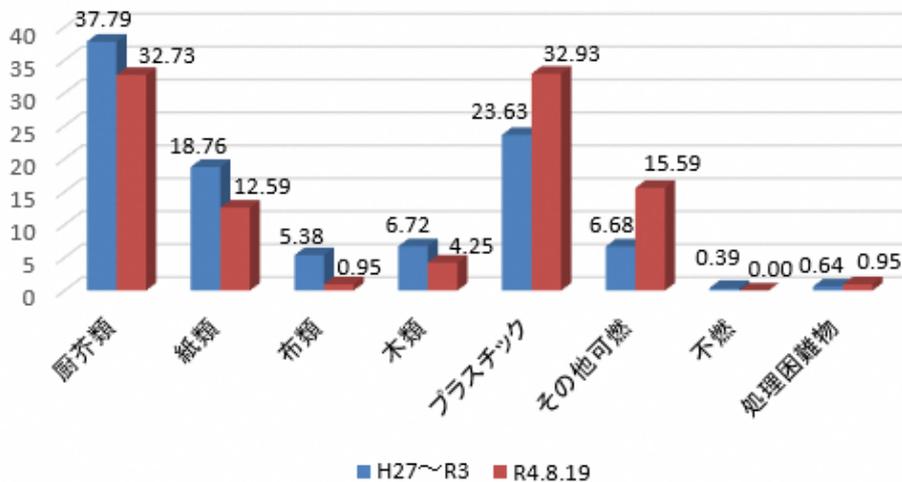
① 家庭系可燃ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「プラスチック類」(32.93%)、「厨芥類(生ごみ)」(32.73%)、「その他可燃物」(15.59%)、「紙類」(12.59%)の4種であり、全体の約93.85%を占めていた。個別に見ると、厨芥類(生ごみ)「調理くず」(24.04%)、プラスチック「プラスチック製容器」(21.09%)、「その他可燃物」(15.59%)の割合が高かった。



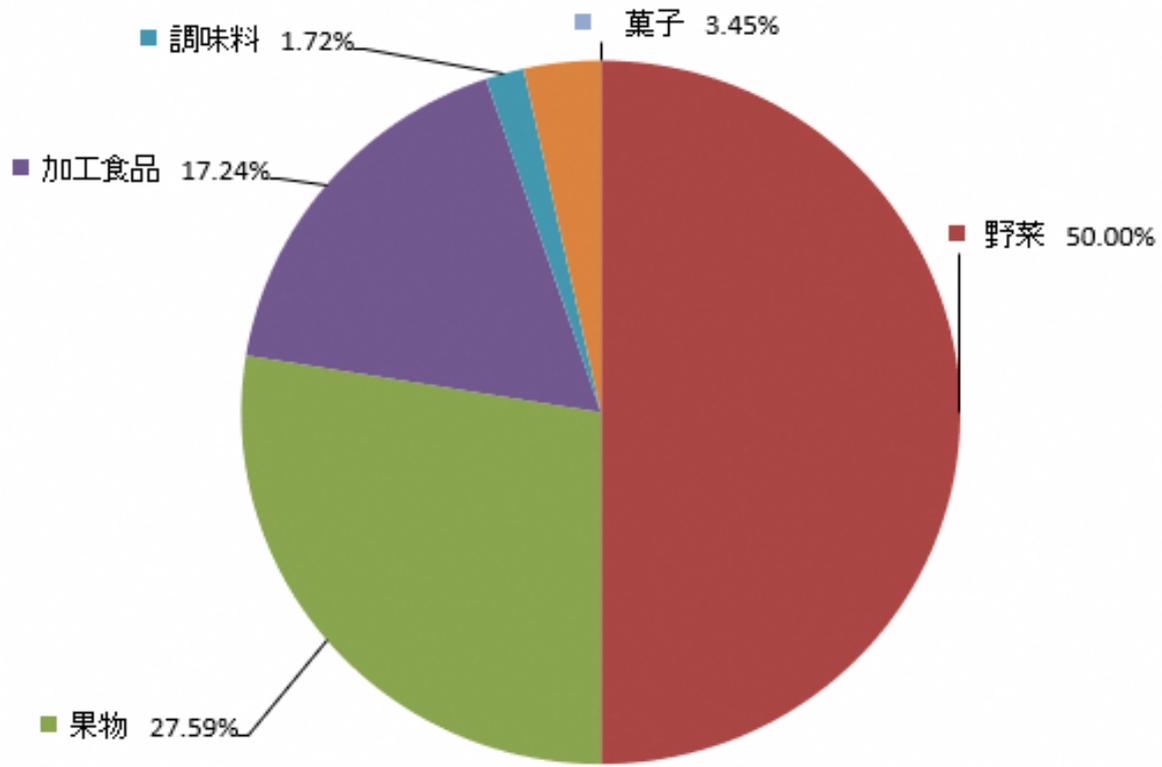
家庭系ごみ組成分析調査結果比較



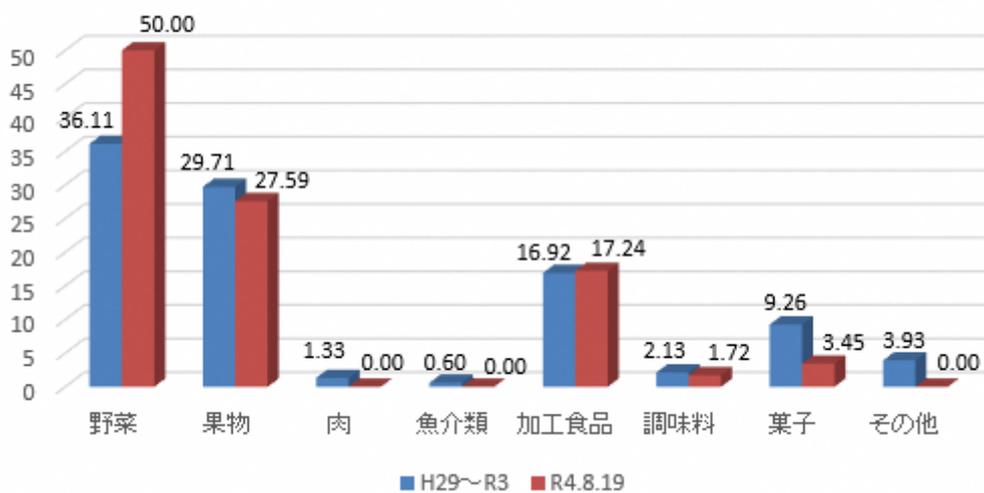
② 家庭系ごみ厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）

厨芥類（生ごみ）の未使用（食品ロス）についてさらに細分化し調査した。

割合として多かったものは、野菜 50.00%、果物 27.59%、加工食品 17.24%であった。



食品ロスの過年度との比較



第3章 分別適正率

①家庭系可燃ごみ

分別適正率とは、家庭系可燃ごみに出されたごみ総量から、紙類・布類のリサイクル可のもの、ペットボトル、不燃物、処理困難物を差し引いた割合のことである。

今回の調査では分別適正率は93.35%となった。

算定式

$$\begin{aligned} \text{分別適正率} &= \frac{\text{総量} - \text{【紙類（リサイクル可）} + \text{布類（リサイクル可）} + \text{ペットボトル} + \\ &\quad \text{不燃物} + \text{処理困難物】}}{\text{総量}} \\ &= \frac{200.1\text{kg} - (11.4\text{kg} + 0.0\text{kg} + 0.0\text{kg} + 0.0\text{kg} + 1.9\text{kg})}{200.1\text{kg}} \\ &= 93.35\% \end{aligned}$$